

・高齢者本人が在宅での生活の継続を希望している現状とあわせ見ると、要介護状態が重くなってもできるだけ在宅生活を続けていくことが望ましいが、重度の者で在宅での生活を送ることができているのは、半分以下の状況にあり、現在の在宅サービスは、すべての要介護者の在宅生活を支えるまでには至っていない。

・「尊厳を支えるケアの確立」に向けて、具体的な方策を講じていくことが求められる。言うまでもなく、介護保険制度は、その中で中心的な役割を果たすことが期待される制度であるが、あらゆる課題すべてが介護保険制度で解決されるものでないことにも留意すべきである。

・わが国の高齢化は人類史上例のない未踏の領域であり、その対応は社会全体で取り組むべきことは多言を要しない。高齢者自身の取組である自助、人々の支え合いである共助(介護保険制度もまさに共助の一つである)、地方自治体の取組などの公助を適切に組み合わせ、活力ある高齢社会を築いていく必要がある。

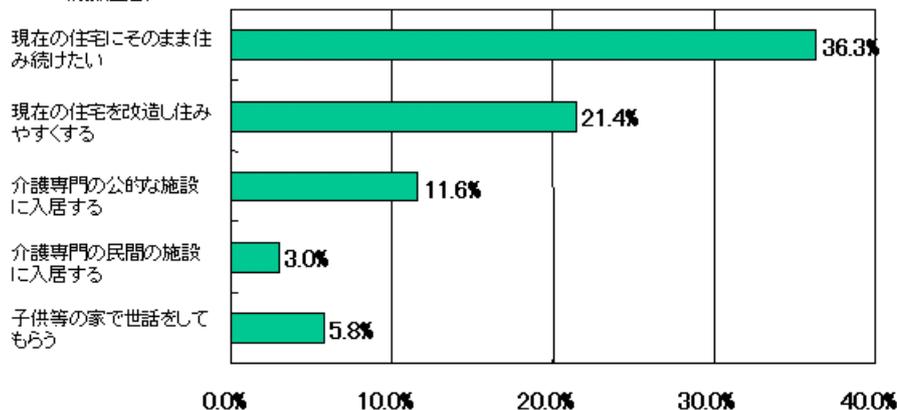
・在宅生活を望む多くの要介護高齢者が、施設への入所を決断せざるを得ないという現実の背景には、在宅では365日・24時間の介護の安心を得ることが極めて困難である、という点がある。

「家の中で転んで起き上がれなくなっても、誰にも気づかれないのではないか」「夜、急にトイレに行きたくなっても、一人ではトイレに行けない。手助けをしてくれる人もいない」という、何かあっても対応してくれる人がいないことへの不安は大きい。この課題を解決するためには、在宅に365日・24時間の安心を届けることのできる新しい在宅介護の仕組みが必要である。

はじめに

上記は2003年に厚生労働省より発表された「高齢者介護研究会」による報告書である。抜粋した内容の通り、残念ながら現在は在宅介護の仕組みが満足に整っているとは言えない。しかし、冒頭の研究会でも取り上げられた内閣府の「高齢者の住宅と生活環境に関する意識調査」(平成13年)によれば、例え介護が必要になっても、施設入居を望んでいる人は15%にも満たない。

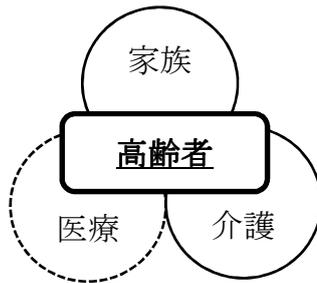
(複数回答)



「介護保険制度はあらゆる課題全てを解決するものではない」「高齢化社会への対応は社会全体で取り組むべきことである」。私たち日本人が直面している超高齢化社会は世界にも類を見ないケースであり、非常に厳しい財政状況を抱える国(行政組織)だけに頼ることは難しい。(後述する通り、介護保険には当初から保険の「支給限度額」が設定されている)

そのため、私たち自身が私たち自身のために協力し、「自分の家で最期まで暮らしたいを支える地域」を構築することが急務である。この地域の互助活動を構築するために、なごみの里が提言・実践するのが、地域の人々による支え合い(互助)組織である「エンゼルチーム」である。

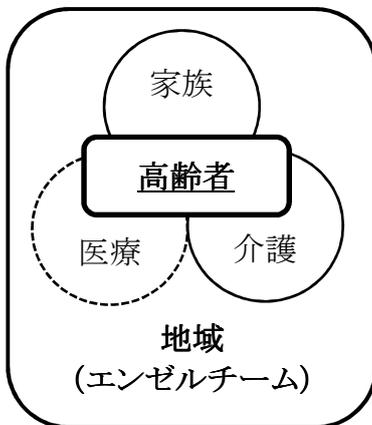
現在の状況・問題点の整理



- ・「医療保険」は医療行為のみ、それ以外は行えない。
- ・「介護保険」は「要介護認定」を受けた人しか使えない。
- ・「介護保険」は介護度により使える点数が限られており、それを越える場合には多大な出費が必要。最重度の方でも、24時間をカバーすることは不可能。

上記により、現在は「家族」に多大なる負荷がかかっている状況である。しかし、家族が仕事を抱えている場合、24時間をカバーすることは不可能であり、独居高(幸)齢者の場合、そもそも家族が同居しておらず、自分でできないことが少しでもあると、在宅にいることのハードルが途端に高くなってしまふ。

エンゼルチーム構築後の状況



エンゼルチームは、「医療」や「介護」を置き換えるものではなく、「家族」を補完するもの、また独居の方にとっては「家族」の代わりとなるものである。

- ・家族が出勤し、デイサービスに行くまでの1時間が心配
- ・独居の状態では日常生活はほとんど心配ないが、食事の時にむせがあったので、誰かがいてほしい
- ・昼間独居の状態なので、たまに誰かが見に行ってくれればと安心

上記のようなケースは、特に専門的な知識もいないため、役割として地域の隣人が一番適している。

上記のようなケースで、どこからもサポートのない場合、家族に心労がたまり、施設等の利用へとつながってしまう場合が多くある。このような小さな問題点を解決すれば、在宅にいられるケースを解決することが、エンゼルチームの役割である。

おわりに

家々のつながりによって地域ごとの“小さな問題”は地域で解決されることが、かつては一般的であった。

エンゼルチームはそのような小さな問題を解決し、「自分の家で最期まで暮らしたいを支える地域」を構築するための第一歩である。人は、誰も老い、そして最期を迎える。エンゼルチームの活動を行うことは「自分たちの地域を、老いた時にも暮らせる地域に変えていく」ことであり、まさしく自分の将来を支えることである。

週間表 Aさん（60代 要介護度4）の場合

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
0:00							
6:00							
7:00							
8:00							
9:00		ホームヘルパー		ホームヘルパー		ホームヘルパー	
10:00	デイサービス	受診			デイサービス		ホームヘルパー
11:00			訪問看護				
12:00							
13:00							
14:00							
15:00							
16:00							
17:00	エンゼルチーム				エンゼルチーム		
18:00		ホームヘルパー	ホームヘルパー	ホームヘルパー		ホームヘルパー	知人
19:00							
0:00							

- ・Aさん(女性)一人暮らし 腰痛あり ほぼ寝たきり状態 認知症状なし
- ・週2回のデイサービス、適宜受診と、ホームヘルパーが入っている状態
- ・夜間等不安はあるが、在宅希望

【問題点】

- ・介護保険、限度額いっぱいのため、サービスの追加ができない
- ・身内も頼れず、日中・夜間とも不安の状態である

【改善点】

- ・月・金曜の夕方ホームヘルパーを入れると限度額を超えて、夕食の摂取が出来ないのでエンゼルの活動で夕食提供
- ・精神的に安心していただく
- ・認知症予防のためにも、お話相手が必要

 Aさん、お一人の時間です。

 『エンゼルチーム』では、月・金の夕方一時間のみ入っています。

週間表 Bさん (90代 要介護度5) の場合

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日	
0:00	家族様						家族様	
6:00								
7:00	ホームヘルパー	ホームヘルパー	ホームヘルパー	ホームヘルパー	ホームヘルパー	ホームヘルパー		
8:00								
9:00	エンゼルチーム			デイサービス	エンゼルチーム			
10:00								
11:00	ホームヘルパー	ホームヘルパー	ホームヘルパー		ホームヘルパー	ホームヘルパー		
12:00								
13:00								
14:00	エンゼルチーム				エンゼルチーム			
15:00								
16:00								
17:00	ホームヘルパー	ホームヘルパー	ホームヘルパー	家族様	ホームヘルパー	家族様		
18:00	家族様							
19:00								
0:00								

- ・Bさん(女性)息子様と二人暮らし
- ・息子様仕事のため、日中一人の状態
- ・寝たきり状態 小々認知症みられる
- ・住み慣れた自宅での生活を希望

【問題点】

- ・日中、一人となり、ホームヘルパー入る時間以外は、心配である

【改善点】

- ・独居の時間「エンゼルチーム」を利用しながら、安全に穏やかに過ごして頂くよう努める
＝地域の皆さんの力が必要となる！！

Bさん一人で過ごされている時間帯です。

「エンゼルチーム」で入っている時間帯です。